

都立高校生を対象とした 「インクルーシブ体験」プログラム

01 事業が生まれたきっかけ

▼障害のある人との交流活動の実施状況

	小学校	中学校	高等学校
実施した	16%	18%	26%
うち、毎年度継続的に実施	15%	17%	25%
数年に一度実施	1%	1%	1%
実施していない	84%	82%	74%

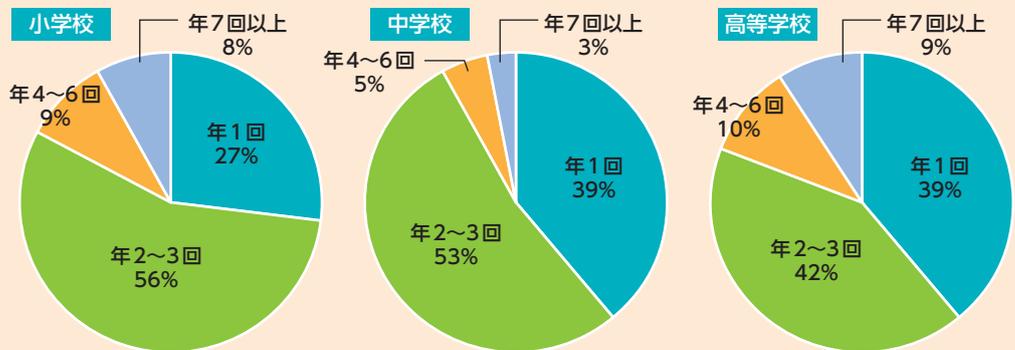
共生社会コンファレンス(p.4～p.5)に登壇した玉置さんは、小学生から都立高校生時代まで普通学級で過ごしてきた中で、同級生達の存在があったからこそ、生活が成り立っていると感じていたそうです。

そこで高校3年生の時(令和5年度)に「都民による事業提案制度」^{※8}を知り、他の学校でも障害のある人に対する理解が進むきっかけを作りたい、自分にも何かできることがあるのではないかと、という思いから、障害のある人等と関わる体験学習の機会を都立高校生に提供するという取組を考え、提案しました。提案は、都民投票において得票数第1位を獲得し、事業化対象候補として選定されました。

文部科学省の調査によると、実際に小学校から高等学校に通う児童・生徒は障害のある人と交流する機会が少ない現状があります。

▶学校全体における年間の実施回数

上記表で「毎年度継続的に実施」と回答した学校のみ回答



平成29年 文部科学省 障害のある児童生徒との交流及び共同学習等実施状況調査結果

02 インクルーシブ社会の担い手を育成するために

このような課題は、東京における生涯学習の振興に関し、長期的な展望に立って、広い視野から検討するために設置された東京都生涯学習審議会の建議においても示されています^{※9}。

そこで、今年度、東京都教育委員会は、玉置さんの提案を「インクルーシブ体験」プログラムとして事業化し、希望するすべての都立高校(定時制課程を含む)・中等教育学校を対象に実施しています。

この事業は、都立高校生等が、障害のある人や高齢者等との関わりや、当事者の生活や思いについて実際に触れる機会を通じて、自分のあり方生き方を見直し、「共生社会づくり」の必要性を理解することを目的としています。

都立高校においては教科「人間と社会」^{※10}等の中で活用されており、本事業を通じてインクルーシブ社会の担い手の育成を目指しています。

03 プログラムについて

実施にあたっては、「インクルーシブな学び東京コンソーシアム」に参加している企業・NPO等を中心に様々な支援団体の協力を得て、障害のある人等を招いての講演や、アートやスポーツ等を活用したコミュニケーション体験等、32種類のプログラムが展開されています。ここでは、その一部を御紹介いたします。

※8 都民による事業提案制度は、従来の発想に捉われない新たな視点から都政の喫緊の課題を解決することを目的として、毎年行っているものです。都民提案制度の詳細な説明は以下のページを御参照ください。

(<https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/zaisei/zaisei/teian>)

また、このページには「インクルーシブ体験」プログラムを提案した玉置さんのインタビューが掲載されています。



※9 第12期東京都生涯学習審議会建議(p.24)には以下の記載があります。

(インクルーシブな学び東京コンソーシアムの)ネットワークを生かし、インクルーシブ社会の実現に向け、都立高校生たちが障害のある方々と対等な関係で出会い、交流することができる学びの機会を用意することも大切である。その際、障害者の生涯学習を推進するための地域コンソーシアムのメンバーが開発したプログラムを活用することが有効である。

※10 「人間と社会」は、平成28年度に必修教科として設置された東京都独自の教科です。よりよい生き方を主体的に選択し行動する力や自らの価値観を高める姿勢を育成するとともに、社会に潜在する課題を見いだす力を育むことを目標としています。

「インクルーシブ体験」プログラムの紹介



『障害』ってなんだろう？ 発見型ワークショップ

NPO 法人障害平等研修フォーラム
<https://detforum.org/>



プログラムのねらい

障害を入りに、多様性と共生 (Diversity & Inclusion) を障害者との対話を通して考える。社会の障壁・人権課題としての障害を「見抜く視点 (『障害の社会モデル』)」を獲得する。インクルーシブな社会を形成する「私の具体的な行動」を形成する。

プログラム概要

「障害者自身がファシリテーター (対話の進行役)」となって、4人1グループでイラストやビデオなどを分析し問題や解決策をグループワークで考える。

「自分だからこそ」を社会に活かす ワークショップ

一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ
<https://djs.dialogue.or.jp/>



プログラムのねらい

暗闇体験での日常と立場が逆転した関わりを通し、視覚障害者だからこそ強み、個々の違い、各自の感じ方の違いを理解する。講演と体験を通して総合的に、「インクルージョン (個々の「違い」を受け入れ、認め合い、活かしていくこと)」について考える機会を創出する。

プログラム概要

視覚障害者のアテンド*による講演を聞いた後、希望者はアテンドと共に純度100%の暗闇の中でのワークショップを体験。

*暗闇の中で案内役を務める視覚障害者



ダイバーシティレクリエーション

認定NPO法人Hands On Tokyo
<https://www.handsontokyo.org/>



プログラムのねらい

人は日常生活の情報の8割を視覚から受けている。この視覚を遮られた「見えない」状態で、仲間とのコミュニケーションの方法を工夫したり、相手の気持ちになって考えることを学ぶ。視覚障害のある人の日常を体験し、今後の共生社会を実現していくきっかけとなる学びとする。

プログラム概要

元パラリンピアンやブラインドサッカー選手など視覚障害当事者を講師とし、アイマスクをした状態で様々なレクリエーションを実施。



演劇の手法を活用した高齢者との コミュニケーション・ワークショップ

NPO 法人 PAVLIC
<https://www.npo-pavlic.org/>



プログラムのねらい

自分と異なる価値観を持つ他者とのコミュニケーションに必要な能力 (人間関係形成能力、社会形成能力等) を育成する。他者理解や地域課題についての考察を深める。

プログラム概要

高齢者施設で、ジェスチャーゲーム等の利用者との交流やおしゃべりを体験する。その後、施設での体験を演劇手法でロールプレイにより表現する。他者理解を深め人間関係形成能力を育む。



りんごプロジェクト

NPO法人ピープルデザイン研究所
<https://www.peopledesign.or.jp/action/ringoproject/>



プログラムのねらい

バリアフリー図書との出会いをきっかけに、読書の世界だけでなく、社会全体に目を向け、誰もが生きやすい社会の実現について考え行動するきっかけになる。

プログラム概要

りんごプロジェクトの活動紹介と読書バリアフリーについての説明後、実際に見て、聞いて、さわってアクセシブルな本を”読む”楽しさを発見する。

インクルーシブダンスで多様性を感じよう

NPO法人みんなのダンスフィールド
<https://www.inclusive-dance.org/>



プログラムのねらい

障害の有無や年齢、経験の差にかかわらず多様な人々が共創して表現するダンスについて、動画視聴や当事者との対話を通して学ぶ。実際に体験することでインクルーシブな表現への理解を築く。

プログラム概要

インクルーシブダンス（年齢や障害の有無、経験の差異にかかわらず、多様な参加者がそれぞれの身体で生き生きと表現するダンス）を体験する。



多様な人とチームをつくるワークショップ

NPO法人Collable
<https://collable.org/>



プログラムのねらい

立場を超えて協力・共創することの面白さについて体験する。多様な人たちとのさまざまなコミュニケーション方法を創意工夫できる。自分と異なる人とチームになることはどういうことかを想像し、環境づくりのアイデアを考えられるようになる。

プログラム概要

障害のあるメンバーをチームに加えたり、条件を与えられた状態でマシュマロタワーづくりを競い合うことで、多様な人たちと協力し合うことについて体感的に学ぶ。



社会の側にある障害をなくそう！ ～ワークショップ編

一般社団法人UNIVA・STEPえどがわ
<https://univa.or.jp/>
<https://www.step-edogawa.com/>



プログラムのねらい

座学や映像を通じて社会的障壁を明らかにすることができる。社会的障壁をなくすための手段を、シナリオづくりを通して考えることができる。

プログラム概要

ダンサナクセイバー（社会にある障壁をなくしていくための戦隊ヒーロー）のショーをもとに、社会的障壁を解消するシナリオを作成し、発表する。

プログラムの紹介



ソーシャルサーカスワークショップ

認定NPO法人スローレーベル
<https://www.slowlabel.info/>



プログラムのねらい

多様性やインクルーシブとは何かを言葉ではなく身体で体感してもらう。他人事ではなく、自分事でものごとを考えられるようになる。

プログラム概要

東京パラリンピック開会式に向けてスローレーベルが開発したメソッドと、シルク・ドゥ・ソレイユのソーシャルサーカスを融合したワークショップを実施。

移動困難者と考える インクルーシブとは

株式会社オリイ研究所
<https://orylab.com/>



プログラムのねらい

障害だけにとどまらない、多様な移動困難者について学ぶ。実際の移動困難者から話を聞くことにより、本質的な課題について考える。正解のない問いについて考える。

プログラム概要

移動困難者に関する講義・当事者の体験談や、分身ロボット OriHime を開発したオリイ研究所の取り組み紹介を聞き、ワークショップを実施。



アール・ブリュットから インクルーシブ社会を考える

社会福祉法人愛成会
<https://www.aisei.or.jp/>



プログラムのねらい

障害の有無に関わらない様々な人の表現に触れるとともに、人の創造力の豊かさや多様な人の存在を知る。誰もが相互に個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認めあう素地を育む。

プログラム概要

「日本のアール・ブリュット」についての講義。創り手や作品を通じて、多様な人の表現や存在等を文化芸術の視点から学びを深め、インクルーシブな社会づくりについて考える。



パラスポーツの体育祭”パラ高祭”

認定NPO法人D-SHIP32
<https://d-ships32.com/>



プログラムのねらい

パラスポーツの楽しさや魅力を体験する。どこか一部使わないという制限を楽しむのがパラスポーツの魅力のため、工夫とアイデアを出す事の大切さを学ぶ。制限がある事で、普段より一人で出来ることが少なくなるため、よりチームワークの大切さを学ぶ。

プログラム概要

パラスポーツ（車椅子バスケットボール、ボッチャ）のクラス対抗運動会